

東上野の防災コンサル 三船さん

インドネシアで基調講演

スマトラ沖地震から20年



インドネシアで開かれたシンポジウムに出席した三船康道さん(右二番目)とインドネシア・アチエ州バンダ・アチエのシャクアラ大学で(本人提供)

台東区東上野の防災コンサルタン

ト三船康道さん(75)は、インドネシアで開かれた防災などをテーマとするシンポジウムで基調講演し、2004年に同国を襲ったスマトラ沖地震や11年の東日本大震災で、専門家としてそれぞれ復興計画の策定に携わった経験を語った。

シンポジウムは11月7日にアチエ

州バンダ・アチエで開かれた。三船さんは20年前のスマトラ沖地震の際、専門家として日本からバンダ・アチエに派遣され、復興計画をとりまとめた。

講演で三船さんは、計画により町の中心部を海岸から離れた場所に移動させたことや、津波でヤシの木がなぎ倒されたため、津波が来ても衝撃を和らげることができる根の深いマンダローブに植え替えたことなどを説明した。

東日本大震災で被災した岩手県大船渡市での体験にも触れ、復興住宅が建っても隣に誰が住んでいるかわからない状態で「コミュニケーションの創造が課題だった」と振り返った。帰国後の取材には「震災の記憶が風化する中、経験を伝えていくのは重要だ」と話した。(鈴木里奈)

